



## 長年の功績を称えて

### 農林水産大臣感謝状を受賞



感謝状を持つ上田和徳さん

10月18日の「統計の日」を記念して、農業水産統計調査に調査員として5年間協力した上田和徳さん(中尾)に農林水産大臣から感謝状が贈られました。

農業水産統計調査は農林水産省が実施する政府統計の一つで、調査結果は農業に関する各種政策に活用されています。それぞれの統計調査は私たちの生活に密接に関わっており、一人一人が関心と理解を深めることが重要です。上田さんの今後ますますの活躍が期待されます。

人権啓発標語 「ともだちの わらうかおは たからもの」

武蔵ヶ丘北小学校 1年 河合 歩(現在2年生)

## 「県人権子ども集会に参加して」

武蔵ヶ丘小学校 5年 久保 遥香



班で話し合う子どもたち



部落差別をはじめあらゆる差別をなくす  
「熊本県人権子ども集会」

10月14日、私は県人権子ども集会に参加しました。私がこの集会に参加しようと思ったのは、実際に周りに流されてしまい友だちを傷つけたことがあったからです。

前に私は相手の気持ちを考えずに、周りが言っているなら私もそうしようと流されて、言えないことがありました。今思うと、その時なにもできなかったことがとてもくやしくて、私は傷ついてつらい思いをしている人を一人でも減らしたいという思いをもってこの集会にのぞみました。

集会で印象に残ったのは合志小学校の発表でした。私は、「だれかが何か悪いことをして先生に言ってしまったらその人がおこられてしまう。だから、おこられた人がかわいそう」と思うてしまうことがありました。合志小でも同じような気持ちを持っている人がいました。でも、発表を聞いて、何か悪いことをしているということは、誰かを傷つけてしまうということでもあり、そのことを理解してもらいこれからの行動を

変えて欲しいという思いを強く持てるようになりました。

また、嘉島中学校は「嘉島中復興プロジェクト」の取り組みを通して、人と人の温かいつながりを発表してくれました。このような温かい心を持つ人が増えればいじめや差別も減ってくると思いました。

他にも、高校生の発表を聞いて人権に対する考えが深まりました。私はこれからもいじめや差別をなくす行動をして、みんなから悲しみやつらいことがなくなり、笑顔で過ごせる学校にしたいです。

(先生から)過去の自分を振り返り、行動を変えたいと考えて県人権子ども集会に参加した遥香さんの思いが伝わってきます。他の学校の発表から、自分と同じような悩みを持っている人の生き方が、自分を変えるきっかけとなったようです。これからも優しい心で友だちを支えていくことでしょう。

### 短歌会

褐色に変わりたる外葉を一枚はぎパラフィンで包むレタス二百個  
山の端にかかる夕日は燃えつきてたらまら消えぬ茜のこして  
ひそやかに明日へ明日へと咲き継ぎて彩る季の花に満ちたり  
街路樹の影濃く映す十三夜寒々と夜は深まりてゆく  
毎朝に杖をつきつき通う道東の空に三日月の見ゆ  
何よりも体力維持に努めむと朝の歩みは日課となりぬ  
どんぐりの落ちて枯れ葉に当る音この森影に今日は聞きたり

### 菊陽句会報

### きくよう文芸

黒電話取りて冷たし山の宿  
バスめぐり復旧大橋谿紅葉  
檣紅葉肥後路の歴史止めつつ  
台風のごくつと逸れて備へ解く  
葡萄棚崩して蔵の解体道  
生きる世の命の冥加返り花  
世の暮らし芸術の秋豊かなる  
卒寿の師囲む祝宴菊日和  
山柿の雅致なる枝の小品盆

田島 三間  
宮川ユキエ  
紫藤 祥子  
曾我 育代  
曾我トモ子  
村上 朋子  
米山 みゆ  
吉田 幸子  
木村 信子

胸の抱く新薫香り稲辞編む  
新そばと手書きの店の暖簾上げ  
芒野は地平線かな天空へ  
湖へ霞の花影灯にゆらぐ  
夢に出ぬ妣恋しくて吾亦紅  
野を称ゆ一輪差しの野菊かな  
ぎんなんの香り豊かに食すなり  
吾亦紅山野一本身を潜め  
木守柿ふんばつてみる空の隅

緒方チエ子  
財津 早雪  
原野レイ子  
田中 郁子  
寺尾千代子  
高橋 孝子  
福田 貴子  
北川しんじ  
佐藤 澄世

梅田 國雄  
河北 幸一  
佐藤せい子  
中村トシエ  
古莊喜佐子  
山口 静子  
松本 東亜

## 人権のまち菊陽フェスタ

「人権のまち菊陽フェスタ」を10月28日(土)、菊陽町図書館ホールで開催しました。熊本県の人権キャラクターココロ隊のステージショー、東部町民センターを拠点に活動するふれあい劇団による「こころをつなぐ『言葉は宝』」の演劇と、山口県人権啓発センターの川口泰司さんによる「知ってた?『部落差別解消法』が施行!〜『寝た子』はネットで起こされる?」と題した講演がありました。川口さんは「部落差別解消法」が成立した背景の一つにインターネット上での部落差別の深刻化があると話し、ネット上の部落差別、人権侵害に対して、国や地方自治体、企業や運動団体、市民などが総力を挙げて取り組む必要があると講演。また、子どもたちがインターネット上の差別や偏見、デマなどを防ぐのに力をつけることの重要性や、インターネット上の差別情報や人権侵害に対する行政の対応、インターネットのプラス面を活用した「部落差別解消法」を推進する取り組みの重要性などの話がありました。

参加者からは「ネット社会でいろいろな事が起こっていることを初めて知りました。大人も子どもも正しい学習が必要だと思いました」「川口さんの話で私の中の考え方が変わりました。寝た子を起こすなど思っていたけどそれは違うような気がします」などの感想が寄せられました。



「部落差別解消法」推進の重要性を力強く話す川口泰司さん